

## 伝統工芸品産業の振興を目的としたデザイン支援活動

### —博多伝統職の会の商品開発とプロモーション活動—

Design support activities for the purpose of promotion of traditional crafts industry

—Product development and promotion activities at Hakata Traditional Craftsmen Association—

生活環境デザイン学科・ソーシャルデザイン学科・写真・映像メディア学科

青木 幹太・井上 友子・星野 浩司・佐藤 慈・荒巻 大樹

Aoki Kanta / Inoue Tomoko / Hoshino Koushi / Sato Shigeru / Aramaki Daiki

#### 1. 研究の背景

博多伝統職の会の商品開発とプロモーション活動は、2016年に博多伝統職の会の事務局が置かれている福岡市経済観光文化局総務・中小企業部地域産業支援課（以下、産業支援課）の依頼で始まった産学官連携プロジェクトである。博多伝統職の会（以下 職の会）とは、福岡県知事指定特産民工芸品である博多独楽、博多曲物、博多張子、博多鉢、マルティグラス（ガラス工芸）や今宿人形、博多おきあげで組織される団体で、商品の展示・販売や体験教室等のイベント開催、職人や工芸品等のPR活動などに職の会メンバーが共同で取り組んでいる。

本学に依頼された背景には、伝統的な工芸品の売上や生産量が減少し、それを担う職人等の後継

者が育たないなど構造的な問題があり、優れた技能を持つ職人と大学が連携して今日の生活様式や価値観を踏まえて、新しい視点から工芸品の新しい可能性を探り、若い世代に向けて工芸品の魅力を発信することなどが期待された。プロジェクトには製品デザインを学ぶプロダクトデザイン専攻の学生が参加し、2016年以降、毎年、連携先が代わり現在まで継続している（図1）。

#### 2. 博多独楽

2016年5月24日（火）に、産業支援課の担当者と職の会の博多独楽三代目 筑紫珠楽氏と産学官連携プロジェクトの進め方や目的、目標等について話し合い、初年度は博多独楽をテーマにすることが決定した。

年度	対象	協力者	活動期間	参加学生	活動内容
2016	博多独楽	筑紫珠楽氏	2016年6月～ 2017年3月	5	●博多独楽の歴史や製作方法を調べ、PR用の冊子を制作する ●筑紫氏から提供された博多独楽に新しく柄、色を付けて、「廻したくなる独楽」のデザイン提案を行う
2017	博多張子	三浦 隆氏	2017年5月～ 2018年3月	5	●博多張子の歴史や製作方法を調べ、PR用の冊子を制作する ●三浦氏から提供された博多張子の「だるま」に新しく柄、色を付けて、博多張子の素朴な魅力が伝わるデザイン提案を行う
2018	マルティグラス (ガラス工芸)	有限会社 マルティグラス	2018年4月～ 2020年3月	5	●現在の商品ラインにはない、新しい商品を企画・開発する ●色ガラスを何層にも重ね合わせる多重積層のガラスの特徴を生かした製品とする
2019	博多張子	三浦 隆氏	2019年5月～ 2020年3月	21	●博多張子でオリンピック競技種目を表現する ●三浦氏から提供された博多張子の「だるま」で選手を競技種目によって、器具や道具等を製作して、競技の雰囲気を出す
2020	博多曲物	柴田徳商店	2019年5月～ 2020年3月	6	●博多曲物の現商品に対して、学生の視点や感性から新しい商品を企画、提案する ●今回の提案に沿って商品化が進んだ場合、制作した柴田徳商店の新しいロゴマークを焼き付けて販売する

図1 博多伝統職の会との連携活動

## 2.1 博多独楽とは

博多独楽の誕生は17世紀後半といわれており、木台に鉄芯を打ち込んだ「心棒」が特徴で、心棒によって回転時のバランスを保ち少ない振れで廻ることから、「曲芸独楽」を生み出す起源になったといわれている。曲芸独楽は博多の伝統芸能として、昭和33年に福岡県無形文化財に指定され、筑紫珠楽氏は三代目家元でもある。博多独楽は子供の遊び道具としても親しまれ、筆者が幼少の頃は、正月になると相手の独楽めがけて自分の独楽を投げて当てて倒す「けんかごま」遊びに夢中になったことを覚えている。

## 2.2 活動内容

プロジェクトに参加した学生は、プロダクトデザイン専攻の3年生4名、2年生1名の5名である。だれも独楽遊びの経験はなく、当初は独楽を廻すことはできなかったが、珠楽氏の指導でできるようになり、博多独楽の面白さや魅力を感じたようである。活動内容を時系列に記述する。

### (1) 現場の取材

2016年6月6日(月)、博多独楽の製作現場を見学し、珠楽氏からその歴史や遊び方、木工ろくろを使った独楽の製作方法などの指導を受けた(図2)。珠楽氏からは、参加した学生に同じ世代の人たちが博多独楽への理解を深め、その歴史や遊び方に興味をもち、認知度を広げることを期待され、これまでの博多独楽にはない新しい柄や色彩を提案することが求められた。

### (2) 提案

2016年8月2日(火)、本学で第1回のデザインプレゼンテーションを実施した。そこでは、独楽を廻したときに回転の速さで独楽の上面に描いた柄や色が変わることに着目し、継時加法混色の独楽<sup>1)</sup>やベンハムの独楽<sup>2)</sup>などを参考に、「見ると廻したくなる」独楽をコンセプトに、動物や果物、国旗などをモチーフにしたカ



図2 博多独楽の製作現場の見学風景



図3 学生が提案した独楽デザイン

ラフルなデザインを提案した(図3)。

### (3) 試作

学生のデザイン案をどのように実現するかについて珠楽氏と協議し、その柄や色をできるだけ正確に再現するために、デジタルデータから自動車のステッカーシールに印刷し、それを凹凸のある独楽の表面にラッピングする方法を用いた(図4)。試作した独楽を珠楽氏に確認・評価してもらい、仕上がり状態や独楽を廻したときの混色等について高い評価を得ることができた(図5)。

### (4) 展示

展示では、独楽を廻す紐を個々の独楽のイメージに合わせて染色し、さらに博多独楽を紹介する小冊子を制作した。展示は2017年2月23日(木)から3月5日(日)の期間、天神イムズB1イムズプラザで開催した九産大プロデュー

1) 継時加法混色：異なる色に塗り分けられた円盤を回転すると網膜上で混色し、例えば黄色と緑色に塗り分けられた独楽では中間色の黄緑色に見える現象。[http://www.enjoy.ne.jp/~k-ichikawa/color\\_MixRot.html](http://www.enjoy.ne.jp/~k-ichikawa/color_MixRot.html)

2) ベンハムの独楽：英国のおもちゃ製造業者チャールズ・ベンハムの名前に由来する独楽で、白と黒の2色で着色された柄の独楽を廻すと、赤や緑、青などの色が見える色感覚が生じる。<https://ja.wikipedia.org/wiki/ベンハムの独楽>



図4 ラッピングシールの製作



図6 九産大プロデュース展2017での展示



図5 筑紫珠楽氏との意見交換



図7 はかた伝統工芸館での展示

展2017(図6)、2017年3月16日(木)から17日(金)の2日間、上川端商店街で開催された「川端夜祭(かわばたよまつり)」で「博多独楽」を回す博多伝統工芸ゾーンが設けられ、同時にはかた伝統工芸館でも実施された(図7)。

### 3. 博多張子 | その1

2016年度の博多独楽のデザイン支援活動は、博多伝統職の会の新しい取り組みとして内外から評価され、2017年度は博多張子の三浦隆氏と連携して、博多張子のデザイン支援活動に取り組むことになった。

#### 3.1 博多張子とは

博多張子<sup>3)</sup>の起源は、江戸時代の中頃、博多御用商人が上方(大阪)へ行った際に、張子の作り方を学び持ち帰ったことが始まりとされ、虎や達

磨などの縁起物が作られてきた。作り方はその当時とあまり変わらず、土で作った型や木の型に、上質な和紙や新聞紙をフノリで貼り重ねて作られる。福岡市民には、年の初めに商売繁盛を願って行われる「十日恵比寿」の飾りの鯛、5月の博多どんたくで演じられる博多にわかのにわか面としても親しまれている。

#### 3.2 活動内容

プロジェクトに参加した学生は、プロダクトデザイン専攻の3年生5名である。2016年度の博多独楽の活動を見て、伝統的な工芸品の魅力や商品開発の可能性、プロモーション活動の必要性などに興味を持って参加した。活動内容を時系列に記述する。

##### (1) 現場の取材

2017年5月23日(火)、博多区冷泉町にある

3) 博多張子 : <https://www.city.fukuoka.lg.jp/promotion/mamechishiki/chishiki155.html>

博多町家ふるさと館の実演・体験コーナーに三浦氏を訪ね、博多張子の歴史や張子の製作方法などの指導を受けた。その際、三浦氏の助言でデザインの対象を博多張子の「だるま」に定め、参加した学生は男だるま、女だるまを対象にデザインコンセプトの検討を進めた。

## (2) 提案

2017年7月11日(火)、本学にて第1回のデザインプレゼンテーションを実施した(図8)。提案では、「博多のおっちゃん」、「博多の祭り」、「博多の食べ物」など博多をキーワードにした博多張子のデザインを三浦氏に提示した。その後、三浦氏から提供された彩色されていない男だるま、女だるまに学生たちが彩色し、2017年11月10日(金)、本学で三浦氏に彩色しただるまを提示し、職人の立場から学生たちの取り組みや彼等の感性から生まれた新しい博多張子に好意的な意見を伺うことになった(図9)。



図8 デザインプレゼンテーションの風景



図9 三浦隆氏との意見交換

## (3) 展示

製作したダルマは、「博多のおっちゃん」、「博多三大祭り」やダルマの柄はそのままで色を変えた「color change」(図10)などである。展示は、2018年2月22日(木)から3月4日(日)の期間、天神イムズB1イムズプラザで開催した九産大プロデュース展2018(図11)、2018年



図10 製作したダルマ



図11 九産大プロデュース展2018での展示



図12 はかた伝統工芸館での展示

3月15日(木)から20日(火)の6日間、はかた伝統工芸館で開催された「博多伝統職の会展」で展示された(図12)。

#### 4. マルティグラス (ガラス工芸)

博多伝統職の会との3年目の産学官連携プロジェクトは、職の会の意向から有限会社マルティグラスのデザイン支援活動に取り組むことになる。

##### 4.1 マルティグラスとは

マルティグラスとは、Multiple Layer Glass (マルチプル レイヤー グラス) の略語で、性質の違ういろいろな色のガラスを何層にも重ねる多重積層ガラスという意味である。昭和12年のパリ万博で、日本のガラス工芸として初めてグランプリを受賞し、そのような歴史あるマルティグラスは、今日では色彩豊かなガラス工芸品として全国的に親しまれている。

##### 4.2 活動内容

マルティグラスの支援活動は、それまでの博多独楽や博多張子とは異なり、学生の自由な発想や感性によるアイデアを出す前に、既存商品の製法や製造技術の特徴を十分に理解することが必要であった。

2018年4月24日(火)、マルティグラスの製作工房を訪問し、ショールームに展示された商品や工房で製作する職人の作業の進め方、製造技術の特徴を理解することに努めた(図13)。その後、ガラス製造技術をデザイン条件として、既存の商品ラインにはない新しい商品、海の生き物であるイソギンチャクをモチーフにした「海の妖精」、森の中の樹木をモチーフにした「森の妖精」を提案した(図14)。スケッチをもとにガラス工房職人の杉岡良紀氏と試行錯誤しながら試作を繰り返し、最終的に2種類の試作品が完成した(図15)。これら商品は、2020年2月20日(木)から3月1日(日)の期間、天神イムズB1イムズプラザで開催した九産大プロデュース展2020(図16)で展示するとともに、会場で実際に販売し、来場者の評価から商品としての可能性を検証した。



図13 マルティグラスの製作工房

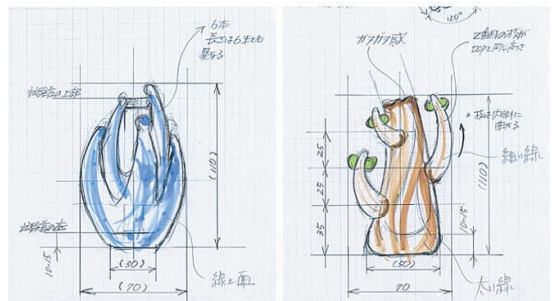


図14 新商品の構想図



図15 完成した試作品



図16 九産大プロデュース展2020での展示

## 5. 博多張子 | その2

2019年度のデザイン支援の対象は、博多曲物であったが、博多曲物の柴田徳商店の諸事情から2020年度に延期になり、産業支援課と伝統職の会との協議の上、2019年度は再度、博多張子のデザイン支援に取り組むことになった。博多張子職人の三浦隆氏と2019年度の取り組みについて協議し、この年が東京オリンピック開催の前年になることから、「博多張子でオリンピック」をテーマに、だるまの張子で陸上や水泳、体操などのオリンピック競技を表現し、オリンピックのPRに繋げるようになった。この年のプロジェクトは、プロダクトデザイン専攻2年生の後期授業である「プロダクトデザイン演習A」の課題の一つに取り上げた。

当該授業の履修学生は17名であり、他学部の履修希望学生3名と伝統工芸に携わる仕事に従事している卒業生1名が参加し、21名がオリンピック競技種目からテーマを選び、競技の特徴がよくわかるシーンを、博多張子で表現した。2019年11月21日(木)の授業時間に、学生が描いたスケッチを三浦氏に掲示し、三浦氏の意見や助言を踏まえモデル製作に進んだ(図17)。モデル製作は、2017年度同様、三浦氏より彩色していない男だるまの提供を受けて、例えばバスケットボールではダンクシュートする八村塁選手をモチーフに、張子とバスケットゴールをモデル化した。

2019年12月12日(木)の授業時間に、製作したモデルを三浦氏に提示し、仕上げ等について細かい助言を得た(図18)。

完成した博多張子は、キャンソボードに固定し、それぞれにタイトルとデザイン主旨を記載したキャプションを添えて、2020年2月20日(木)から3月1日(日)の期間、天神イムズで開催した



図17 スケッチによるプレゼンテーション



図18 三浦隆氏との意見交換



図19 九産大プロデュース展2020での展示

九産大プロデュース2020（図19）で展示し、来場者に21の競技の中から好きなデザインを選んでもらう人気投票を行なった。

## 6. 博多曲物

2020年度の博多伝統職の会の産学官連携プロジェクトは、前年度、取り組むことができなかった博多曲物であり、2019年度同様、プロダクトデザイン専攻3年生の後期授業である「プロダクトデザイン演習B」の選択課題に設定し、6名の学生が選択した。

### 6.1 博多曲物とは

博多曲物は、杉や檜の薄板を熱形成で曲げて、桜の皮で綴じて作られる。金属などは一切使わず、軽く、持ち運びが容易で、乾燥すると耐久性が増すなどの特徴がある。はじまりは神功皇后が征韓の際に馬出で応神天皇を産み、その胞衣を収める器に曲物を奉納したという言い伝えがある。宮崎八幡宮の氏子の家に代々伝わり、奉納品にされるとともに、飯櫃や弁当箱、茶びつなどの生活用品として庶民にも親しまれていった。昭和初期には20軒以上の工房があったが、現在は2軒を残すのみとなっている。

### 6.2 活動内容

2020年10月16日（金）、参加した6名の学生と福岡市東区馬出の柴田徳商店を取材し、店主の柴田氏から博多曲物の特徴や産学官連携プロジェクトへの期待等を伺い、工房内の取材と曲物の製作体験を通して、曲物の基礎知識を習得した（図20）。その後、曲物の特徴や製造技術をデザイン条件として、今日の生活スタイルを想定した「おにぎりに特化した弁当箱」、「高級食パンを保存するお櫃」、「茶碗として使うお櫃」、子供のお祝い膳のポップーお膳の絵を生かした「写真立て」、曲物の曲がり形状を生かした「ヘッドフォン立て」や「お香立て」、「プレスレット」などをデザインし、新しい商品のロゴマークを柴田徳商店の入り口に掲げられた看板から制作した（図21）。

2021年1月28日（木）に工房を訪問し、デザイン案を提示し、各々説明を行った。柴田徳商店で



図20 博多曲物の製作現場の見学風景



図21 商品ロゴマークのデザイン



図22 デザインプレゼンテーションの風景



図23 九産大プロデュース2021での展示



図24 博多曲物の新商品

は2月の本学主催の展示会出展を目標に、数点の試作を行うことになった(図22)。2021年2月18日(木)から28日(日)までの期間、天神イムズで開催した九産大プロデュース2021(図23)で展示・公開し、来場者から新しい商品に対する意見、感想などを収集した(図24)。

## 7. まとめ

博多伝統職の会では、小規模の会社や少人数もしくはひとりの職人による工房のような小さい組織で、歴史と伝統に裏打ちされた工芸品の製造、販売が行われている。多くの工芸品は、一部で工作機械等を使うものの、その多くは職人の手業で作られており、生産性は低いが手業による風合いや永い間、継承され変わらないデザインがその魅力となっている。

博多伝統職の会が大学と連携する背景には、熟練した手業で日々、継承されてきたものを作り出していくという比較的变化の少ないものづくりの中で、若い感性と視点をもつ学生が、どのような答えを出してくるのかという期待がある。マルティグラスや博多曲物では、連携プロジェクトを通して、新しい商品を開発する機会にするという考えもあったようである。

学生が工芸品の商品開発やプロモーション活動に参加するメリットは、それまで知る機会や触れる機会が少なかった博多独楽や博多張子などに知り、工芸品の現状や魅力を知り、工芸品とプロ

ダクトデザインの関わり方や役割を理解することである。工芸品を製作する職人との交流を通して、職人の手業の素晴らしさや手業を通して生まれる商品の価値を理解し、職人のものづくりに対する真摯な姿勢や考え方に接することで、伝統的な価値を今日の生活に繋ぐ必要性や重要性に気づくことになる。

このような活動を通して、高齢化する職人の後継者の育成も重要な課題であるが、このプロジェクト活動では、まだそこまでは行き着いていない。

## 参考文献

- 1) 青木幹太, 井上友子, 佐藤佳代, 星野浩司, 佐藤慈, 荒巻大樹: 伝統工芸品産業の振興を目的としたデザイン支援活動 —博多人形の商品開発とプロモーション活動—, 九州産業大学芸術学会研究報告, 第51巻, p57-68, 2020
- 2) 青木幹太, 井上友子, 佐藤佳代, 星野浩司, 佐藤慈, 荒巻大樹: プロジェクト型デザイン教育の方法 その1, 九州産業大学芸術学会研究報告, 第49巻, p65-70, 2018
- 3) 青木幹太, 井上友子, 佐藤佳代, 星野浩司, 荒巻大樹: 地域産業プロモーション2012 —博多人形のリ・デザイン—, 九州産業大学芸術学会研究報告, 第45巻, p71-74, 2014